



北陸

七國志

十七

2861  
17



13  
2861  
17

文屋原木乃

くわりの  
くわりの  
くわりの  
くわりの  
くわりの  
くわりの  
くわりの  
くわりの  
くわりの  
くわりの

北國全太平記卷之第十七

目錄



大納言利家卿遺言事

利家卿逝去 余諸將議誅伐三成事

三成逃至伏見

附 諸將被請討三成事

三成赴江州佐和山事

徳山利家卿臨終物語事

利家卿遺骸葬送 余利長卿飯国事

明治三十四年  
十月十八日  
購

門  
伊13  
號  
100  
卷  
17

讀本

全

一

增田長束シカサス 讒利長卿以下ヲ

丹羽長重ハハ 飯国加州事ニ

北国全太平記卷之第十七

洛下 後学 馬場玄隆信意輯録

大納言利家卿遺言事ヲイゲンノ

去程ルニ加賀大納言利家卿。御病痾日ヲ逐テ重リヲモ  
至ヒ針藥施スニ効シナク。漸々ニ心神弱リ至ヒ  
シカバ。存命モ程アルマシト思召シ。同キ二十八  
月慶長四年三月ナリ。家嫡利長卿へ遺言シ至ヒケルハ。吾  
此度疾病日々ニ重ク精神既ニ衰ヘヌレバ死期  
モ近ヅキヌト覚ヘタリ。吾死シナハ。體ニ入レ本  
国ニ下シテ。野田山ニ葬ルベシ。御邊ノ母利家卿  
モ相共ニ。國ニ下向セサセラレヨ。御邊ハ大坂ニ

アツテ。幼君秀頼卿ヲ輔佐シ。合身利政ヲ国ニ皈  
シ。加賀。能登。越中。三个国ヲ守ラセラレヨ。富家ノ  
勞凡一万余六千余騎ハアルベケレバ。八千余騎ハ。  
大坂ニ置テ然ルベシ。其余ノ八千余騎ハ。在国セ  
サセテ。利政ガ下知ヲ守ラスベシ。若秀頼卿ニ逆  
キ。謀反ノ輩出来リナハ。利政八千余騎ノ軍士ヲ  
卒シ。大坂ニ馳上リ。利長ニカヲ合スベシ。其時ニ  
到リナハ。篠原出羽守ヲシテ。金沢ノ城ヲ守ラス  
ベシ。篠原ハ。藤原ノ士ナリ。末森ハ。王寺ノ合戦ニ  
軍功ヲ抽テツレバ。城ヲ守ラシメテ。夫堅ク守ル  
ベキ者ナルゾ。是ニヨツテ。吾姪ヲ以テ。渠ニ嫁セ

置シナリ。然リトテ。渠一人ニテハ叶フミシ。御邊  
ガ隔心ナキ勇士ヲ。篠原ニ相添へ。堅ク城ヲ守ラ  
スベシ。御邊ハ。今ヨリ三年ガ間。必国ニ皈ルベカ  
ラス。大坂ニ在テ天下ノ安否ヲ窺フベシ。若逆乱  
出来リナハ。御邊身共ト共ニ。軍兵ヲ引卒シ。国ヲ  
出テ大ニ戦ヒヲ決シ。生涯ノ吉凶ヲ定ムベシ。必  
此コトヲ忘ルハ。コトナカレ。若我領国ヲ一足ニ  
テモ。敵勢ニ踏セナハ。吾靈魂深ク是ヲ恨ムベシ。  
舊君信長公。每度寡ヲ以テ衆ニ勝玉ヒシコト。皆  
分国ノ境ヲ踰テ。合戦ヲ遂玉ヒシユヘゾカシ殊  
ニ文武ノ道ハ。身ノ兩翼ノゴトク。專ラ是ヲ学ブ

ベシ。武ヲ嗜ミタル計リニテ。文ヲ廢スルハ上將  
ニアラス。御邊ハ是加賀。越中三州ノ主ナリ。  
夙ニ夜ニ心ヲ尽シ。正士ノ風儀ヲ匡シ。貪若ノ諸  
士ニ武ノ道ヲ励スベシ。依怙具負ヲスベカラズ。  
能監察シテ士ノ善惡ヲ知ルベシ。天姓聰明英才  
ナル善士ヲ撰ミ。能務知テ是ヲ登用。曰。数年ノ家  
人ヲ瘵シ。新叅ノ者共ヲ愛スルコトナカレ。年久  
シキ家人ヲシテ是ヲ用テ可ナリ。昨今新叅ノ輩  
ハ。主ノ威風ノ壯大ナルヲ見テハ。従フト云ヘド  
モ。危キニ至ツテ命ヲ援ケズ。却テ叛逆ヲ起ス者  
ナリ。譜代ノ者ハ危キニ臨ンデ命ヲ捨。恨ミアリ

ト云ヘドモ義ヲ守ルハ。是天下ノ通情ナリ。故若  
信長。明智ガタノニ弑セラレ玉ヒシ時ヲ以テ。家  
人新古ノ情意ヲ知ルベシ。吾壯年ヨリ舊臣等ヲ  
シテ国政ヲ掌ラシメ。干戈動クトキハ先鋒トセ  
リ。此ノゴトクナルコト数年。未タ一度モ不覺ノ  
名ヲ取ラス。先君信長公。尾州ニ勅興シ。群臣ヲ  
吞シ。遂ニ四海ニ威ヲ震ヒ。日夜合戦ヲ挑ミ玉ヒ  
シカドモ。新叅ノ士ノ譜代ニ超ルハナカリシナ  
リ。吾佐々成政ト二年ノ争ヒ。東州松枝。八王寺ノ  
攻戦ニ。新叅ノ勇士ト云ヘドモ。其功多年ノ家人  
ニハ劣リタリ。是ヲ以テ知ルベキナリ。新叅ト云

へドモ二十年ヲ經ナバ。家ノ風儀ヲ知ルベキナ  
リ。能ク々思慮ヲ巡ラサレヨ。吾隱居領加賀二郡。越  
中水見郡ハ。御邊是ヲ領セラレヨ。能州四郡。太刀  
五振。指三腰黃金千枚。ハ次男利政ニ讓ルナリ。  
其餘ノ諸畧金銀財寶ハ。札目錄ノゴトク。吾遺命  
ニ任セ。諸人ニ分テ遣スベシ。金沢ノ城ニアル處  
ノ。珍畧寶器金銀以下。皆御邊ニ附與スルナリト  
宣ヒテ。其後書ヲ取出シ。利長卿ニ與ヘ玉ヒ。是ハ  
吾先ニ利政ニカ、セツル誓紙ナリ。其ユメハ。兄  
利長ヲ父ト思ヒ。尊敬シテ兄ノ命ニ背クベカラ  
ズ。忠孝ヲ尽スベキ旨ノ誓書ナリ。御邊ハ又未タ

男子アラガレバ。利政ヲ以テ愛子ノ思ヒヲナシ  
小トナク大トナク是ヲ憐ミ是ヲ惠ミ。善ヲ勸メ  
惡ヲ諫メ。平生ノ風騷ヲ匡サレヨ。家臣村井豊後  
守長頼。奥村伊豫守永福ハ。我家ノ元臣タリト云  
へドモ。頃年其子共ニ家督ヲ讓リツレバ。吾死シ  
ナバ。益是ヲ悲ムベシ。急ギ劍髪セサセ。勤仕ヲ赦  
シテ世ヲ安ク暮サスベシ。若賀儀婚禮ノコトア  
ラバ。必此ニ老ヲ以テ。其事ヲ掌ラシムベシ。此ニ  
老ハ壯年ヨリ。數度ノ軍功ヲ究メ。一干余騎ノ隊  
將ナリ。若逆乱出来リナバ。此ニ老ヲ或ハ先鋒ト  
シ。或ハ左陣トシ。或ハ右軍トシ。或ハ後陣トシテ

其然ラン此二士ハ爪牙ノ臣タルノミニアラス  
奥村ハ先年浪人トナリシトキ越前金崎ノ合戦  
ニ首ヲ取テ高名シ。吾前ニ持来リシカバ。則勸氣  
ヲ免シ懇意ヲ加ヘ功ヲ謝セシナリ。況未森ノ大  
功。東州ノ先鋒。其功言語ニ尽レガタシ。村井ハ江  
州金森ニ於テ。佐久間玄蕃允ト詞ヲ合セ壁ヲ乘  
越先登シ。猶首ヲ取テ信長公ニ獻ジ。大坂ニ於テ  
鎗ヲ合セ高名ス。三州長篠ニテハ予ガ危キヲ助  
ケ太刀ヲ以テ奮戦シ。遂ニ名士ノ首ヲ得タリ加  
之未森ノ突戦蓮門ノ軍勇勝テ討ヘガタシ。田  
長右衛門ハ利害ニ明カナル者ナルユヘ案ガ分

量ニ過タリト云ヘドモ隱居領トシテ。二千石ノ  
食録ヲ與ヘ置ヌ。御邊是ヲ思ヒ懇意ヲ加ヘラレ  
テ然ルベシ。今ヨリ後ハ其功劳ニヨツテ。御邊ノ  
心ニ任セラレヨ。又青山佐渡守ハ。人トナツテ廉  
直ノ者ナルユヘ魚津ノ城ヲ守ラセ置ヌ。最懇志  
ヲ加フベシ。去ルニヨツテ御邊カ姉ノ庄ノ方川  
武藏守光重ノ道。青山ヲ督トセンコトヲ兼テ望  
ム。必ナリ。又篠原出羽守カ妻。不幸ニシテ身マカ  
リヌ。是ニヨツテ御邊ノ母。利家卿ノ北ノ方。青山ガ  
女ヲ以テ。篠原カ妻トセンコトヲ望ム。是皆吾死  
後ニ御邊宜ク討ラハレヨ。長九郎左衛門尉連龍

高山右延ハ。累年吾一人ガ命ヲ守リ。專忠直ノ輩ナリ。能ク懇切ヲ尽サレヨ。山崎長門守ハ。身越ノ合戦ニ武功ノ譽レアリト云ヘドモ。天姓武勇ニ慢シ。人ヲ輕シ侮ル心アリ。御邊取テ怠ル心ナク。諸士ノ剛憶忠不忠ヲ察シ。国家ヲ治メラルベシト。細々ト遺言シ至ヒケレバ。利長卿泪ヲ押ヘ。御心易タ思シ召レ候ベシ御遺誠ヲ守リ。幼君ヲ輔佐シ。国ヲ治メ候ベシト宣ヘバ。御傍ノ人々皆泪ニゾムセビケル。

利家卿逝去 余諸將議誅伐三成事

其後利家卿。諸臣ヲ召レ。汝等臣タルノ道ヲ尽シ

忠功ヲ專ラトシ。退テハ其過ヲ補ハシコトヲ思ヘ。其善ニ順ヒ其惡ヲ匡セ。然ルトキハ国豊カニ。子孫益繁栄シ武威弥盛シナラン。汝等ガ嗣孫モ亦共ニ榮ユベシ。汝等怠ツテ忠ヲ尽サズ過チヲ補ハズンバ国家滅敗ニ及テ。天下ノ諸人ノ嘲罵ニ隨ン。汝ガ子孫等モ亦亡滅ニ及ンデ。永ク断絶セシ。若死ヲ免レナハ。必ス奴隸ノ耻メヲ受ヘシ。汝等敢テ怠ルベカラズト。委細ニ遺誠アリ同キ。閏三月三日。揚州大坂ニテ終ニ逝去シ玉ヒケレバ。北ノ方ヲ始メ。付々ノ女房達。御傍ノ近臣等。歎キ悲マズト云フコトナリ。御年六十二歳。高德



院殿ト号シ主上後陽成院。從一位ヲ贈ラセ玉フ。例シ少キ度共ナリ然ル処ニ同キ四月。徳川家ニ心ヲ寄シ加藤主計頭塙正。細川越中守忠興。福島左衛門太夫正則。池田三左衛門尉瀧政。淡野左京大夫幸長。黒田甲斐守長政。加藤左馬助嘉明以下ノ人々悉ク同意シテ。石田治部少輔三成力宅ヲ取囲ミ。一時ニ攻亡ホサント議セラレケル程ニ。兵馬四方ニ馳遣ヒ。騷動スルコト斜ナラス。諸將又中納言利長卿ノ方へ使ヲ馳セ。吾々大義ヲ起シ。倭人三成ヲ誅シテ。叅奉ヲ天下ニイタサント。存立テ候ナリ然レバ三成ニ心ヲ寄ル処ノ奸

賊等蜂起シテ。三成ヲ救ヒ候ベシ。願ハクハ利長卿。我々ニカヲ添玉ハラバ逆徒ノ誅戮踵ヲ廻スベカラズ候ト云ヒ送ラル。利長卿聞玉ヒ。奸賊等誅伐ノ秘計ヲ巡ラサレ候エト。理リニハ候ヘドモ。願ハクハ此心ヲ改メ。騷動ヲ静メラレ候ヘ。是非ニ素志ヲ達セント思ハレ候ハバ。各心ヲ勞セラル。マデモナク。利長軍勢ニ將トシテ。逆徒等ヲ誅伐センニ。何ノ度カ候ベキ。早ク兵ヲ罷ラレ候ヘカシト長シヤカニゾ返事シ玉ヒケル。  
三城逃至伏見 附諸將被詰討三城事  
諸將利長卿ノ返事ヲ聞大ニ悦ビ使ヲ三成ガ宅

ニ指道ハシ。汝文モナク武モナクシテ。故君秀吉  
公ノ寵ニホコリ諸人ニ親疎好悪ノ思ヒヲナシ  
忠アル者ヲモ不忠ト申ナシ。功アル者ヲモ功ナ  
シトシ。義アル者ヲモ不義ナリト披露シ人ヲ讒  
スルコト其数ヲ知ラズ。其罪一ツ。秀言公薨去ノ  
後世上ニ種々ニ浮説群疑出来ツテ。諸人心ヲ安  
ンセス。是天下ヲ覆ンガタメ。汝ガ謀ニテ。世ニ云  
ハスル処ナリ其罪二ツ。我々朝鮮ニ渡海シテ。振  
群ノ功ヲ励ムト云ヘドモ。汝ガ讒言ニヨツテ。故  
君无マテノ恩賞ヲ賜ハラズ。是誠ニ汝ガ舌頭ニ  
ヨツテ。莫太ノ功ヲ抛ツ。其罪三ツ然ル上ハ。汝ハ

早ク剃髮深衣ノ姿トナリ。其余ノ者共ニハ。速ニ  
自害セサスベシ。然ラバ汝ガ一命ヲ助クベシ。左  
ナキニ於テハ。忽ニ攻亡ホシテ。汝ガ首ヲ刎ンコ  
ト掌ノ上ニ運レツベシト。云ヒ送ラレシカバ。三  
成大ニ怒リ。己ガ宅ニ取籠ツテ。一戦セントゾ。議  
シタリケル。是ニヨツテ大坂中ノ町人共六ニ周  
章馳キ資財雜具ヲ持運ビ老タル親ヲ喚切キ子  
ヲ尋子テ上ヲ下ヘト騷動ス。浅猿カリシ夏共テ  
リ。爰ニ常州ノ佐竹右京大夫義宣ハ。三成ト断金  
ノ友ナリケルガ。此コトヲ聞。三成ガ難ヲ救ハン  
ガタメ。伏見ヨリ大坂ニ馳来ラレケルガ。熊ト土

卒ヲ。森口邊ニ残シ置キ。小勢ヲ卒シテ。三成カ宅  
ニ入り。三成ニ對面シ。様々密談ニ及ヒテ。後三成  
ヲ忍ヒヤカニ。女ノ乗物ニ乗セ。是ヲ相伴ヒテ。中  
納言秀家郷ノ。備前嶋ノ亭ニ至ラルレバ。秀家郷  
ヨリ送リトシテ。軍勢ヲゾ添ラレケル。斯テ佐竹  
義宣ハ。三成ヲ携ヘ伏見ニ立退キ。三成ガ伏見ノ  
舊宅ニゾ著レケル。大坂ノ諸將。加藤。福嶋以下ノ  
人々ハ。我モくと三成ヲ追テ。伏見ニ馳至リ。  
徳川家ノ。向嶋ノ御館ニ叅上シ。此間世上ノ騷動。  
皆三成ガ謀討ヨリ出テ候ヘバ。此上ニ又如何ナ  
ルコトヲカ仕出シ候ベキ早ク上意ヲ蒙テ。三成

ヲ誅伐仕リ候ハント聖マル。徳川家本多佐  
渡守正信ヲ召レ。此コトヲ御相談アル。正信承リ。  
當時御味方ノ諸將。三成ヲ誅シ候ハ。却テ奢侈  
出来リ候ヘシト申サルレバ。正信ノ遠慮ノ程ヲ  
感シサセ玉ヒ。其後諸將ノ方ヘ仰出サセラレケ  
ルハ。太閤薨去未タ程モナキ処ニ。私ノ宿意ヲ以  
テ黨ヲタテ類ヲ聚メ。恣ニ又ヲ磨キ。世ノ騷動ヲ  
引出サル。ノ條甚タ以テ穩便ナラス。吾老年ニ  
及ブト云ヘトモ。天下ノ政道ヲ行フ身ナレバ。此  
ノゴトクノ大要出来リヌルコト。世ノ嘲嘆ヲ免  
レガタシ。早旁心ヲ改メ。軍勢ヲ引取ラルヘシ。諸

將又三成ヲ強テ討ント思ハルニ於テハ。吾素ヨリ三成ト不快ナリト云ヘドモ。吾三成ヲ助ケテ。旁ト一戦シ。雌雄ヲ一時ニ決スベシ。若和睦ナリナハ。三成ノミニアラス。吾モ共ニ滿悦スベシト仰出サル。諸將承リ。三成ハ私曲偏頗ニシテ。忠臣義士ト申セトモ。己ガ心ニカナハサルトキハ。種々ノ讒ヲ構ヘ候去ニヨツテ所領ヲ召放シ。職ヲ失シ辱メヲ受ル者。牧擧スルニ違アラス候ナリ。君庶幾ハ。三成誅伐ノ儀ヲ御免シナサレ下サレ候ヘカレト。強テ望ミ申サレシカトモ。堅ク御制止アリシカバ。諸將モカナクシテ。牙ヲ嚙

ニ拳ヲ握ツテソ止ニケル。

三成赴江州佐和山事

此時諸臣 德川家ヲ勸メ奉リケルハ。三成素ヨリ君ヲ討ラント相巧ミ候然レバ。是天ノ與フル処ニテ候急キ三成ヲ誅セラレ候ヘカレト申サル。然レトモ御許容ナク。三成カ方ヘ仰遣ハサレケルハ。當時諸將ノ憤リ甚シケレバ。一旦是ヲ靜ムト云ヘドモ。猶怒ミ止ヘカラス。是天ナク歿ヒナリ。遂ニ江州佐和山ニ暫居スベキ旨命セサセ至ヒケレバ。三成承リ。猶胥議ノ上ニテ。御請申候ベシトテ。頗テ閑所ニ入テ密談ス。會津中納言

續七

景勝郷上杉佐竹右京大夫義宣ハ。無二ノ朋友ナ  
リケルガ。何コトヤラン此人々ニ。三成良久シク  
閑談シテ後。徳川家ノ御館ニ使者ヲ指上ケ。上  
意ニ從ヒ。佐和山ニ蟄居仕リ候ヘシト。慇懃ノ礼  
辭ヲソ述サセケル。是ニヨツテ同キ七日。三成伏  
見ノ宅ヲ出。佐和山ニ立退ク。徳川家猶モ如何  
ナル變カ出来ルベキト思シ召レ。御子結城中納  
言秀康郷ニ。堀尾帶刀吉晴。中村式部少輔一氏ヲ  
相添ヘ三成ヲ送ラサセ玉フ。黃門勢多マテ御送  
アレハ。三成泪ヲ流シ。徳川家ノ御厚恩生々世  
々忘レ奉ルベカラズト。慇懃ニ礼義ヲ述。佐和山

ニソ赴キケル。

徳山利家卿臨終物語事

同キ十三日。徳川家向嶋ノ御館ヨリ。伏見ノ城  
ニ御移リアル。是大坂ノ中老中村式部少輔一氏。  
堀尾帶刀吉晴。生駒雅樂頭近世三人ノ輩。是ヲ執  
シ請待シ奉ル。奉行ノ面々モ同心ス。中ニモ堀尾  
深ク此コトヲ執シ申シ。徳善院云以當番ノ日。御  
移リ有ケルトゾ聞ヘケル。爰ニ利長卿ノ家人。徳山五兵  
衛尉ハ。頃々折々。徳川家ノ御前へ伺候セシニ。  
御懇情ヲ加ヘサセ玉ヒシカハ。常ニ御前ニ茶上  
シテ。頗ル御家人ノゴトクナリ。是ニヨツテ或ト

キ徳山ヲ御前ニ召レ。大納言利家ノ臨終ハ如何  
アリツルヤト尋サセ玉フ。徳山承リ。サン候利家  
卿ノ遺言ニ於テハ。曾テ様子ヲ承ラス候既ニ臨  
終ノ期ニ及ビ候處ニ。北ノ方尤右ニ向ヒ。未ダ君  
ノ經帷子ノ用意ナシ。經帷子ヲ著セ恭ラセシヤ  
ト宣ヒ候ヘバ。利家卿打突ヒ玉ヒ。吾素ヨリ心中  
明々赫々タレバ。日月ト齊シカラシ。此數十年ガ  
間。入ヲ惠ミ人ヲ憐レム其慈悲佛ニ劣ルマジケ  
レバ。成佛センコト疑ヒナシ然ルヲ吾經帷子ヲ  
著シテハ。鬼共大ニ怖レ。悉ク吾ニ属シ從ハンカ。  
吾是ヲ著ズシテ。迷途ニ赴キナハ。獄卒共吾ヲ侮

リ大ニ叱レ怒ルラン。然ラバ真先ニ進ム奴原ヲ  
抛倒シ切り散シ。武威ヲ地獄ニ震フベシ。如何ナ  
ル獄卒トモ云ヘ。爭カ吾ニ當ルベキ。察スルニ怖  
レテ十方ニ逃失セナン。其トキ直チニ西方極樂  
世界ニ馳入テ吾諸佛ノ將トナリ無量ノ群佛ヲ  
吾ガ幕下トセンニ。何ノ疑ヒノアルベキヤ。少モ  
心ヲ勞セラルハコトアルベカラズ。吾棺中へ甲  
冑兵器ヲ納メ。本国野田山ニ葬ルベシ。吾軍神ト  
ナツテ。子孫ノ武運繁榮ヲ護ルベシ。世ニモ無念  
ナルハ。吾今幼君秀頼卿ヲ弃迷途黃泉ノ旅ニ赴  
カンコトノ口惜サヨト。アラハカナル言ヲ揚ゲ

大ニ怒リ玉ヒシカハ。髮空サマニ立場リ兩眼ハ  
サナガラ炬火ノゴトクニ候ヒシガ。新藤五ノ脇  
指ヲ執リ鞘ナガラ胸ヲタハキ大恠ヲ發シテ。嗚  
呼烈怒餘リアリ。深恨多クナリト宣ヒテ。忽息絶  
至ヒ候ト。委細ニ申上シカバ。大ニ感ジサセ玉ヒ。  
叔々大勇大膽ノ人ヲ失ヒケル者カナトテ。頻ニ  
御落涙坐シケリ。

利家卿遺骸葬送 余利長卿飯国事

去程ニ大納言利家卿ノ遺骸ヲ荷擔シテ。神谷信  
濃守。村井勘十郎。橋本宗右衛門尉。靈體ニ相從ヒ。  
同キ四月六月加州金沢ニ下著セシカハ。國中ノ

男女泣カナシムコト。尤ナガラ父母ニ後レシガ  
ゴトシ。同キ八月甲冑兵器ヲ棺中ニ納メ。野田山  
ニ葬送シ參ラスル。前轅ハ利長卿ノ名代トシテ。  
利家卿ノ誓。前田對馬守長種是ヲ昇ク後轅ハ次  
男能登守利政ノ名代トシテ。脇田善左衛門尉是  
ヲ昇ク。天蓋ハ。神谷信濃守是ヲ持篠原出羽守。神  
谷信濃守。村井勘十郎以下断髮ノ輩多カリケリ。  
斯テ利長卿遺命ニ任セ。諸器金銀ヲ諸士ニ頒テ  
與ヘ。功臣群士ヲ隣レミ玉ヒシカハ。諸士咸ク忠  
節ヲ抽スト云フコトナク。加賀能登越中ノ三个  
国。殊無異ニ属シケリ。係ル処ニ同キ十八日。主上後

陽成院ノ勅ニヨツテ。故秀吉公ノ社ノ廟号ヲ豊  
國大明神トナシ下サル。同キ十九日。豊國大明神  
ノ遷官ニヨツテ。秀頼卿ノ代官トシテ。福嶋左衛  
門太夫正則。青木紀伊守以下社叅セリ。徳川家  
モ御社叅アツテ。照高院ニ渡御ナサレ。天台ノ論  
議ヲ御聽聞アリ。同キ二十日ニハ四座ノ太夫ニ  
仰付ラレ。豊國大明神ニテ猿樂能アリ。洛中ノ貴  
賤男女群叅シテ是ヲ見物ス。希代ノ粧觀ナリト  
ゾ聞ヘケル。爰ニ五奉行ノ内。増田右衛門尉長盛。  
長東大藏太輔正家ハ。三成ト一味同心者共ナリ  
ケルガ如何ニモシテ天下ヲ覆ント相巧ミ。當時

宗徒ノ大名ヲ何トソシテ国々ヘ下シ置。其後世  
上ニ雜説ヲ謠ハセ。隣國ノ交リヲ疎クシテ。迷職  
ノ勞ヲ怠ラセ。ナバ。仁者モ變ジ安ク義士モ欺キ  
ヨカラント思ヒ上杉。毛利。前田等ノ人々ノ方ヘ  
様々術ヲナシケルガ或トキ増田。長東等。利長卿  
ノ方ニ叅リ今天下ノコト万民ニ至ルマデ。枕ヲ  
泰山ノ安キニ置テ。万歳ヲ唱ヘ候。只危ク存シ候  
ハ遠國ノ士民共。國守ノ間ヲ窺ヒ。上ヲ輕ンシテ  
揆ヲ企ルコトモヤ候ベキ。御存ノ如ク加州ハ元來  
古ヨリ。一揆ノ國ニテ候ヘバ心元ナクコソ存シ  
候ヘ殊更御身ニ於テハ。家督ヲ續セ玉ヒテヨリ。

貞治七



未ダ所知入モ坐サ子バ如何ナル訴訟人又ハ奉  
公ノ望ミアル者共ヤ候ラン。国安フレテコソ天  
下衆平ノ功モ立ラレ候ハンズレト。言ヲ巧ミニ  
述ケレバ。利長卿渠等ガ計略トハ知リ至ハズ。免  
モ角モト宜ヒシカバ。増田長東大ニ悦ビ。徳川  
家ニ斯ト披露シケレバ。早速御許容アリケルユ  
ヘ。同キ八月二十七日利長卿大坂ヲ立飯田ニ赴キ  
至ヒケレハ。會津中納言景勝卿上杉。安藝中納言  
元卿毛利モ御暇ヲ賜ハツテ。各本国ニ赴キ至  
ヒケリ

増田長東ガヌ讒利長卿以下ヲ丹羽長重ハ飯田

去程ニ中納言利長卿ハ本国加州金沢ノ城ニ下  
著シ至ヒ國中ノ制法ヲ出シ。非常ヲ正シ忠功ヲ  
賞ジ至ヒシカバ上下今メカシク時メキテ。長臣  
出頭人ノ門前ニ市ヲナシ。三个国ノ諸士昼夜ノ  
分チモナク城ニ相詰ケル程ニ。鞍馬門前ニ充滿  
タリ。殊ニ堀櫓石垣等ヲ修理シ玉ウヘシトテ。國中  
賑ハシク見ヘニケリ。増田長東等ハ兼テ忍ビノ  
目付共ヲ下シ置シコトナレバ。委細ノ様子ヲ聞  
テ大ニ悦ビ。思フ圖ニ仕寄ツレバ。能術コソ出来  
リタレ。天下ヲ覆ンコト近キニアリト。二人月メ  
クハセシテゾ居タリケル。係ル処ニ同九月七月

徳川家。大坂ニ渡御坐ス。増田右衛門尉長盛。長  
 東大藏、太輔正家。時至リヌト悦ンテ竊カニ御前  
 ニ参上シ。叔毛利長国ニ飯リテ後。城郭普請ノ用  
 意専ラナル由承リ候ユヘ。不審ニ存シ候処ニ。竊  
 ニ軍勢ヲ集メ馬物具ヲ調へ。謀叛ノ計略ヲ巡ラ  
 サレ候。其上土方大野等利長ニ一味仕リ。明後九  
 月重陽ノ御賀儀トシテ。城ニ御入り坐ン処ヲ。謀  
 リ奉ラント相巧ミ候ナリ。其外一味ノ輩如何程  
 カ候ラン計リカタク候。必御油断ナサレマジキ  
 ニテ候ト。證状正シク言上シテ。二人ノ護者ハ飯  
 リケリ。斯テ同キ九月。重陽ノ賀儀トシテ。大坂ノ

城ニ御入りアル。供奉ノ人々常ヨリモ倍シケレ  
 バ。櫻ノ門ニテ警固ノ士共是ヲ咎メ。此門ヨリ内  
 へ。供奉ノ人々多クハ停止タルノ由。制シ申スト  
 云ヘドモ。供奉ノ面々是ヲ用ズ。門内ニ押入タリ  
 然レドモ。警固ノ士重子テ制スルコトヲ得ズ。是  
 徳川家ノ御威光盛ナルニヨツテナリ。供奉  
 ノ人々ハ。各對面所ノ障子ヲ隔テ、列座セリ。斯  
 テ重陽ノ賀儀終リレカバ。徳川家ハ其ヨリ還  
 御坐シケリ。増田、長束等謀計ヲ巡ラシ。如何ニ  
 モシテ世上ヲ騒カシ兵ヲ集メ。不意ニ 徳川家  
 ヲ襲ヒ奉ラント。様々術ヲ巡ラシ。猶毛利長謀反

ノ由。洛中。大坂。伏見等ニテ沙汰セサセケレバ。大坂中何トナク騒動ス。是ニヨツテ。同キ十二日。伊奈圖書ヲ御使トシテ。伏見ニ指遣ハサセ玉ヒ。結城中納言秀康卿ハ。伏見ニ御座アツテ。堅ク城ヲ御守リアルベシ。其余ノ人々ハ。速ニ大坂ニ馳参ルベキ旨ヲ。仰遣ハサレケレバ。在伏見ノ人々我モくト馳参リ。堅固ニ守護シ奉ル。其ヨリ大坂西ノ丸ニ御座ナサシ。世ノ騒動ヲ御鎮メアルベシトテ。増田右衛門尉。長束大藏太輔ニ仰付サセラシ。西ノ丸ニ天宇ヲ築カシメ玉フ。今年ノ秋ヨリ翌年ノ六月マデ。西ノ丸ニ御在城坐シケリ。傍人

等カ讒ニヨツテ。終ニ土方大野ヲ流罪ニ行ハセ玉ヒ。其後加州小松ノ城主。羽柴加賀守長重丹羽五郎。无衛門尉長秀子ヲ西ノ丸ニ召レ。利長叛逆ヲ企ツルノ由。傍若無人ノ所行タリ。御邊トハ相替ニシテ。共ニ親シキ中ナレドモ。日比ノ心底ヲヒルガヘサズ。急ギ小松ニ飯城シテ。金沢ノ躰ヲ窺ヒ。追々ニ進アルベシ。吾討手ヲ指向ナハ。御邊先驅タルベシトテ。栗田口吉光ノ小腸指ヲ引出物トシテ。賜ハリシカバ。長重是ヲ拜戴シ。御請ヲ申シ。我宅ニ飯リ。取物モ取敢ズ。夜中ニ打立。昼夜ヲ分タズ馳ラレケルガ。又夜中ニ小松ニ馳著。老臣等ト密

談シ。金沢ノ様ヲゾ窺ハレケル

北国全太平記卷之十七終

